

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅲ-4-1 多様な自然の保全

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 自然環境課長 齋藤 晃大 電話番号 0852-22-5346

事務事業の名称	レッドデータ生物に関する調査・研究・保護事業	
目的	(1) 対象	レッドデータ生物
	(2) 意図	多様な種を保護する具体策を検討するための基礎資料とする。
事業概要	絶滅危惧種の保護対策の基礎資料とするため、レッドデータブック掲載（予定）種について、現況調査を実施する。 島根県希少野生動植物の保護に関する条例で指定している指定希少野生動植物について、定期確認調査等の保護対策を実施する。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	調査研究した種の総数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		49.00	10.00	6.00	6.00	
式・定義	調査研究した種の総数		実績値	32.00	43.00	16.00	7.00		
			達成率		87.80	160.00	116.70		%
指標名	式・定義		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	1,869	2,741
うち一般財源(千円)	1,869	2,741

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

レッドデータブック掲載種については、河川調査等を実施し、ミナミアカヒレタビラ、シンジコハゼの情報を収集している。
指定希少野生動植物5種については、モニタリング調査を継続するとともに、その結果に基づき、地元保護団体、関係機関等と連携し、保護対策を進めている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

希少野生動植物の基礎データの収集は計画的に実施している。
指定希少動植物であるミナミアカヒレタビラについては、モニタリング調査結果により、野生絶滅が危惧されることから、地元保護団体、研究機関、関係行政機関等を構成員とした保護対策協議会を設立し、保護対策の検討を実施した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

県においてすべての希少動植物の調査研究をすることは困難

②困っている状況が発生している「原因」

希少動植物の情報は、大学、研究機関、民間研究者等のさまざまな主体に蓄積されており、それらの情報を県において収集することが必要

③原因を解消するための「課題」

島根大学、研究機関（三瓶自然館、宍道湖自然館、ホシザキ野生生物研究所等）、NPO等との連携の強化

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

今後も県において継続的に希少野生動植物の調査研究を実施し、「しまねRDB」の改訂に反映させていくことが必要である。
県においてすべての希少野生動植物について調査研究を行うことは困難であることから、三瓶自然館等の研究機関との連携を強化し、広く民間の研究者等の情報を収集していくことが必要である。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）